

シンポジウム

第1回ペレット市民会議ーインターペレットイン美幌ー

木質バイオマスと環境保全思想の普及を目的とした、一般市民向けのシンポジウム「第1回ペレット市民会議ーインターペレットイン美幌ー」が、(財)北海道開発協会の地域活性化活動助成を得て、11月17、18日の両日、美幌町民会館で開催されました。



木質ガス化発電デモも無事成功し記念撮影



司会を務める枝澤則行副代表。染谷良美美幌町副町長(右)、三木康臣代表(中央)

開催日時：平成19年11月17日(土)12：30ー17：30
11月18日(日) 9：00ー12：30

開催会場：美幌町民会館、北見工業大学

主催：北海道木質バイオマス研究会

共催：美幌町、ペレットファンQlove北海道

協力：(財)北海道開発協会

後援：網走開発建設部、網走支庁、
網走南部森林管理署、
在札幌米国総領事館、
森林利用学会、(社)全国木材組合連合会、
日本太陽エネルギー学会、
日本エネルギー学会、NEDO北海道支部、
(財)日本住宅・木材技術センター、
(財)北海道環境財団、
北海道バイオマスネットワーク会議、
北海道バイオマス発見活用協議会

参加者数：約150名

基調講演

エネルギーの地産地消・尺度としての二酸化炭素

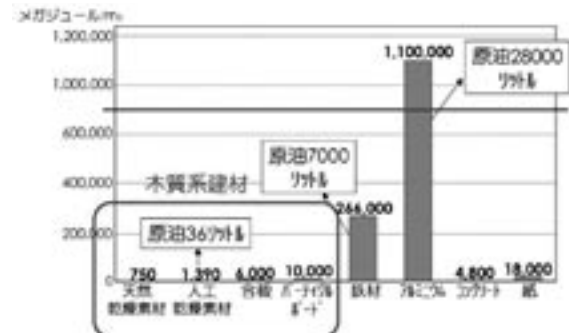


武山 倫氏 たけやまひとし
建築家
PLEA デザイン研究所主宰

武山先生は、建築分野における二酸化炭素排出量の削減の観点から、エコマテリアルとしての木材、国産材の利活用の重要性を訴えました。また、ご自身の関わった建築の事例を紹介しながら、木質バイオマスの積極的利活用を提案されました。

北海道木質バイオマス研究会

平成14年、北見工業大学の教官と森林管理署の森林官を中心に設立。会員は木材業、建築業、行政、大学教官等道内外の30数名。代表は三木康臣(北見工業大学准教授)。年数回のワークショップを北見・美幌と札幌を中心とする道内で開催し、木質バイオマスと環境保全思想の普及活動、自然エネルギーの活用による地域振興のために活動する。京都議定書による温室効果ガス排出量6%の削減を目指す国民プロジェクト「チーム・マイナス6%」にも参加している。



尺度としての二酸化炭素ーエコマテリアルとしての木材、そして国産材



美幌町の森林認証額の展示



屋外での各種ペレットストーブの実証展示

テクニカルツアー

美幌貨物自動車(株)のリサイクルセンター

テクニカルツアーでは、解体廃材や産業廃棄物の中に出る伐根や枝条しじょう（木の枝）などの資源を有効利用して新たな製品化をしている施設を見学しました。解体廃材で防腐剤加工されていない材料は、家畜の敷わらとして通常のチップより細かく粉碎して角をなくし牛の爪に刺さらないようにしているのが特徴です。伐根や枝条はチップ化して、酵素を混ぜて培養土にして製品化していました。木質系については100%リサイクルできている状況を見ることができました。



テクニカルツアーで美幌貨物自動車(株)の田村社長から説明を受ける参加者

主催者展示

木質ガス発電デモとフジキ式粉炭ストーブ

今回の展示の目玉は、木質ガス発電デモです。木質ガスがぼーと燃えて驚き、ガスエンジンが動いて歓声が起こりました。また、「温故知新・ストーブ小史」というわけで、北見の藤木商会で発明されて昭和40年代初頭まで使用されたフジキ式粉炭ストーブと、レンペン型ペレットストーブ(レンペンストーブは同じ発明者)を展示しましたが、老若各自の感想をもったようです。



ガス炉で生成した木質ガスが燃焼している場面
北見工業大学機械棟前での実演なので、工大生が見聞を広める役割も果たした

笑顔つなげて

ペレット市民会議を、北海道木質バイオマス研究会が道内の自治体と共催で毎年開催する年中行事にしたいと考えています。第1回開催地の美幌町からは、実行委員の澤島雅俊氏、鳥本敬視氏のほか、当日の運営に経済部職員の皆さんの協力を得ました。

また、初日の夕べはグリーンビレッジ美幌で、関係者による親睦会がありました。北海道木質バイオマス研究会は、「ネットワークによる新しい価値の創造」と異業種間交流の場でもあります。1泊2日とすることにより、人と人、そして笑顔をつなげる場であることも願っています。

共催の美幌町や後援団体から応援に来られた人、共催のペレットファンQlove北海道の会員、都合で参加できなくてもさまざまな面で後方支援をいただいた人、一般の参加者、そして、実行委員、本当にありがとうございました。たくさんの方の笑顔をつなぐことができました。大成功でした。

(報告：三木康臣、枝澤則行、市橋 誠、荒井竜太郎)

特別講演

木質エネルギー生産へのヤナギ類の活用・ヤナギ類の形態・生態・利活用



斉藤新一郎氏
さいとうしんいちろう
環境林づくり研究所主宰

斉藤先生は、道内のヤナギ類の形態・生態について説明された後、ヤナギ類は初期成長が大変速く、増殖は枝挿しが容易で、萌芽更新も活発であると、丁寧に説明された。ヤナギ類のバイオマス生産への利用は、大変有望であるとしました。

会場において初めてこの類のお話を聞いた参加者もあったようですが、参加者は興味深く聴いていたようです。

木質ペレット基礎講座

木質ペレットの製造工程に関する説明が、北海道ペレット(株)の市橋部長よりありました。同社は、月形町で平成18年度から実際に木質ペレットを製造していますから、わかり易い説明に、ペレット初心者にも大変好評のようでした。



市橋 誠氏
いちはしまこと
北海道ペレット(株)営業部長



ロータリーキルン乾燥機とペレタイザー

ポスターセッション

ポスターセッションでは、高知市に本社を置くサピオ(株)の下村邦夫氏、(株)道央環境センター美幌支店の高松泰仁氏、近畿大学の井田民男氏、美幌町未来を拓く森林づくり協議会事務局の澤島雅俊氏(美幌町経済部耕地林務グループ主幹)とペレットファンQLove北海道の高橋史和氏がプレゼンテーションを行いました。

下村氏は、太陽と木質バイオマスの利用機器に関する道内における事業事例を紹介しました。高松氏からは、自社開発しているBDF(バイオディーゼル燃料)の状況についての説明がありました。井田先生からは、バイオマスから製造するバイオコークスの開発状況と道内での展開の説明がありました。また、澤島氏からは、森林認証を含む美幌町の林務行政の取り組みについての紹介と説明がありました。高橋氏は、ご自宅に設置した国産ペレットストーブを二冬運転されての体験について報告され、グリーンコンシューマー(環境を大切にする消費者)の立場からの意見も述べられた。



ポスターセッション全体説明に聴き入る参加者

協賛団体等による場内展示と屋外展示

美幌町民会館内会場では、協賛団体による展示が5件あり、(株)道央環境センター美幌支店によるBDFに関する展示もありました。屋外では(有)大広燃料店、北海道ペレット(株)、光栄建設(株)による各種ペレットストーブの実演展示があり、通りがかりの市民も興味深げでした。

旭川の白井鋳鉄工業(株)からは、鋳物製のクッキングストーブとジギスカン鍋が展示され、鋳物製のスピーカーから流れてくるBGMとともに参加者の気を引いていました。同社は、鋳物製のペレットストーブの開発も計画中で、楽しみです。